

大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 4363号 2018.5.7 発行

ネット依存症の疑い、中高生52万人 暴力ふるう傾向も 大岩ゆり

朝日新聞 2018年5月5日

内閣府の2017年度の調査によると、小中高生の7割以上がネットゲームをしており、比率は年々高まっている。ゲーム以外にもSNSなどネットを利用する時間も長くなっている。1日の平均利用時間は159分で、14年度より約17分伸びた。

厚生労働省研究班の12年度の推計によると、ネット依存症の疑いがある中高生は全国に約52万人に上る。ただし、ネットやゲームをする子どもがすべて依存症になるわけではない。

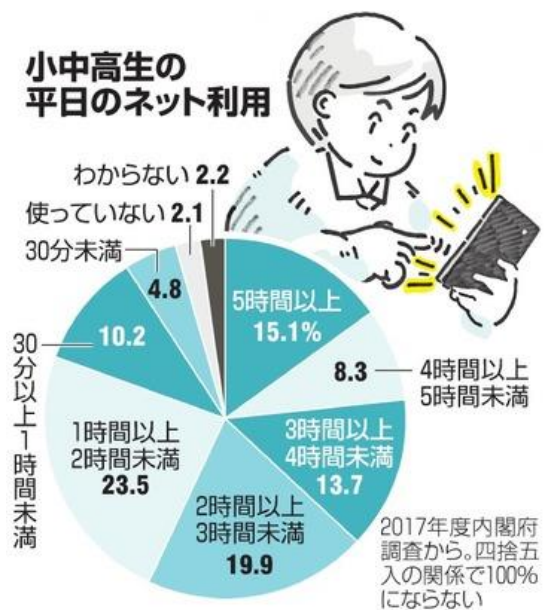
単なるやり過ぎと依存症の違いは、自分で制御できるかに加え、心身の健康悪化、遅刻や不登校、家庭内暴力などの問題が起きているかないかで判断する。

国内で初めてネット依存症外来を開いた久里浜医療センターでは年間約1800人が受診する。未成年が56%、20代が31%で、男性が85%を占める。樋口進院長は「始めるのが若いほど依存症になりやすい」と警告する。子どもは脳が十分に発達しておらず、快感や刺激を求める欲求が理性に勝る傾向があるという。

ネット依存症には、SNSなどへの依存症も含まれるが、圧倒的に多いのはゲーム依存症で、センターの患者の9割を占める。主流のオンラインゲームは内容が常に更新され、際限なく続けてしまうという。樋口院長は「勉強やスポーツに比べて簡単に達成感が得られ、依存に陥りやすい」と指摘する。

センターでゲーム依存症と診断された人は、朝起きられない(76%)、昼夜逆転の生活(60%)、学校や会社を休む(59%)などの問題を抱えていた。物を壊す(51%)、家族に暴力をふるう(27%)といった暴力的な傾向も目立った。

小中高生の 平日のネット利用



ゲーム依存症による様々な問題

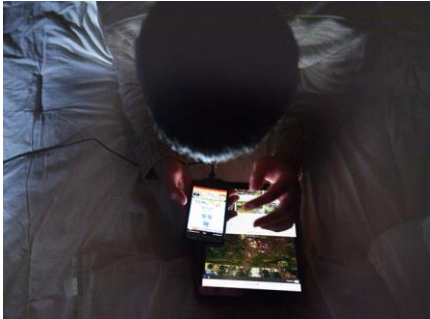


学校行かずゲーム16時間 運動乏しく、肺は53歳判定 大岩ゆり

朝日新聞 2018年5月5日

歴史的な寒波が東京を襲った1月下旬、都内在住の女性（44）は自宅アパート前にとめた乗用車で夜を明かした。車内は零下8度。息で窓が真っ白になった。でも、自宅に戻るのが怖くて寒さに耐えた。

自宅には、面倒をみている当時中学3年の男子生徒（15）がいた。学校にも塾にも行



かずに家でスマートフォンのゲームばかりしているのをとがめたら、キレて襲いかかってきた。



タブレット端末で他の人がゲームをする動画を眺めながら自分もスマホでゲームをする男子生徒。画面がよく見えるよう明かりを消す＝東京都内、恵原弘太郎撮影

男子生徒が約2年間で購入した専用のプリペイドカードは50枚を超えていた＝東京都内、恵原弘太郎撮影

「うるせえ」「死ね」

髪をつかまれてひきずり回され、殴る蹴るの暴行を受けた。身の危険を感じ、家を出た。



暴力は日常茶飯事だった。肋骨（ろっこつ）にひびが入ったり、腰を痛めて動けなくなり救急車で運ばれたりした。椅子を投げつけ、壁や家具はボコボコだ。

男子生徒は「ゲームにはオーラがある」という。はまっていたのはキャラクターを集めて育て、対戦させるオンラインゲーム。常にバージョンアップされて新しいキャラが次々

に登場し、終わりが無い。ネットを介して見知らぬ人とつながり、一緒に戦ったり敵になったりする。「まったく飽きなかった」

ネット依存症、予防するには 費やした時間の記録から 朝日新聞 2018年5月5日

ネット依存症は、オンラインゲームやSNSなどのやり過ぎを自分でコントロールできない状態だ。心身の健康悪化、遅刻や不登校、家庭内暴力などの問題が起きている場合に依存症と判断する。厚生労働省研究班の2012年度の推計では、ネット依存症の恐れがある中高生は52万人に上った。ネット依存症のうち最も多いのはオンラインゲームへの依存だ。

世界保健機関（WHO）は今年6月に公表する疾病分類の改訂案で初めて、ゲーム依存症を「ゲーム障害」として疾患名に入れる。

WHOの定義は、ゲームをする時間などを自分でコントロールできず、他の関心事や日常の活動よりもゲームを選ぶほど優先度が高く、様々な問題が起きてもゲームを続けたり、より多くゲームをしたりする状態。原則としてはそういった状態が12カ月以上続くとゲーム依存症と診断されるが、症状や問題が深刻な場合にはもっと短期間でも診断できるとしている。



治療は、医師や臨床心理士らによるカウンセリングが主体となる。全国で初めて専門外来を開設した国立病院機構・久里浜医療センター（神奈川県横須賀市）の樋口進院長は「意志が弱いからゲームやネットをやめられないのではなく、依存症という病気。依存症の状態に陥ったら個人や家族の努力だけで治すのは困難なので、専門機関の治療を受けてほしい」と話す。

依存症まではいかなくても、依存の恐れがある場合はどうしたらいいか。樋口院長が勧めるのは、まずは自分がどれぐらいゲームなどをしているのか実態を把握することだ。毎日、何時から何分間、ゲームやネットをしたかを記す。

実態を把握したら、今度は「食事中はゲームをしない」「ベッドに入ったらゲームをしない」など、短時間でいいのでスマートフォンなどをいじらない時間帯を決める。次の段階で、ゲームも含めてネットをいじる上限時間を決める。

「目標を立てる時に大切なのは、実現可能な内容にすること」と樋口院長はいう。例えば「通学中にゲームをしない」という目標を立てても、何年にもわたって通学中にゲームをしていた人が、周りにゲームをしている人が大勢いる電車の中で我慢するのは難しい。ゲームをする時間を減らす分、音楽鑑賞やスポーツなど、別の楽しみを見つけると目標を達成しやすいという。

1位は「どんねんないきもの事典」 子どもが選ぶ最も好きな本

NHK ニュース 2018年5月5日

子どもたち自身が最も好きな本を選ぶ「こどもの本総選挙」の投票結果が、こどもの日の5日に発表され、さまざまな生き物の不可解な生態を紹介する「どんねんないきもの事典」が1位となりました。

「こどもの本総選挙」は、全国の小学1年生から6年生にいちばん好きな本を投票してもらった上で、児童書の出版社などが初めて企画しました。

全国の学校などを通じてことし2月までの3か月ほどで12万票余りが集まり、このうちトップ10に選ばれた本が、こどもの日の5日に東京都内の会場で発表されました。

1位には、さまざまな生き物の不可解な生態を紹介する「どんねんないきもの事典」が選ばれ、この本に投票した小学6年生の男の子が、本を監修した今泉忠明さんに「残念な生き物のことをよく知ることができました。そして、僕自身も残念なところを改善していきたいと思いました」と感想を伝え賞状を贈りました。

この本は、強そうに見えるカバの肌が弱いことや、パンダの好物であるササにはほとんど栄養がないことなど、動物の「残念」にも思える不可解な点にスポットを当てた児童書で、シリーズ累計の発行部数は160万部を突破しています。

今泉さんは「子どもの頃はイタズラばかりで、賞なんかもらったことのない残念な子どもでしたが、初めてのトップです。ありがとうございました」と答えていました。

このほか、2位には、絵本作家ヨシタケシンスケさんの「あるかしら書店」が入ったほか、トルルさんの「おしりたんてい」シリーズなどが、上位にランクインしました。

発表会場にはお笑い芸人で芥川賞作家の又吉直樹さんも現れ、会場の子どものたちに向けて、「本は、友達と感想を言い合うことも楽しいですし、1人で本に向き合って、自分だけがどう思ったかということも大事にしてほしいと思います」と話していました。

全国約700校から10万票余り集まる

「こどもの本総選挙」の投票は、専用のホームページや協力している全国の学校や図書館、それに書店などに備えられた専用のがきを通じて行われました。学校を通じた投票が特に多く寄せられ、中には全校で参加する小学校もあって、全国のおよそ700校から10万票余りが集まりました。

5日のイベントの会場となった荒川区の複合施設「ゆいの森あらかわ」の図書館も、この企画に共感し、自作のポスターを館内に張り出すなど、熱心に投票を呼びかけてきました。

「ゆいの森あらかわ」の図書専門員、林胡蝶さんは『子どもが選ぶ』という点がポイントだと思います。私たちもふだんから『この本、面白いよ』と提案しますが、やはり大人の勧めよりも、同年代が勧めるほうが読みたくなると思うので、この企画は読書の機会を作る1つのチャンスになると思います」と期待を語っていました。

この企画の事務局では、今後、このランキングを学校や図書館に伝えて、読書推進の取り組みに生かしてもらおうほか、全国の書店のフェアなどにも利用してもらおうことにしています。

小学校高学年は月 11 冊程度も高校生は 1.5 冊に

全国学校図書館協議会などの調査によりますと、子どもの読書量は学校での朝の読書の定着もあり、小学校高学年では平均で1か月に11冊程度と高い水準を保っていますが、中学・高校へと進むに従って急速に減少し、高校生では、月に1.5冊ほどとなっています。企画の事務局長を務めた岡本大さんは「小学生のうちに、かけがえのない1冊に出会うことが、その後の読書習慣にもつながっていくのではないかという思いで企画しました。まずは多くの子どもたちに、トップ10の本を手にとってもらいたいです」と話していました。

ひきこもり、気軽に相談を 県支援センターがガイドブック 中日新聞 2018年5月6日 ガイドブックを手にとり相談を呼び掛けるスタッフ＝岐阜市鷺山向井の県ひきこもり地域支援センターで



ひきこもりに悩む人やその家族に外部への相談を促そうと、県ひきこもり地域支援センター（岐阜市）が、支援団体や自治体の窓口などの情報を一冊にまとめた「ひきこもり支援ガイドブック」を作った。

ひきこもりの当事者や家族は、家から出られない、仕事に就けない、学校に行けない、収入がない、などの悩みを抱え込みがち。周囲に相談しにくかったり、相談先が分からなかったりして、長期化する場合も多い。

ガイドブックは、県内で支援活動をしているNPO法人など十六団体の活動内容や連絡先を紹介。保健所や子ども相談センター、社会福祉協議会、市町村などの連絡先も網羅した。

家族向けに「まずは家族と社会とのつながりを取り戻すことが大切」とメッセージを添え、気軽に相談するよう呼び掛けている。

センターは二〇一六年六月、岐阜市鷺山向井の県精神保健福祉センター内にできた。県内唯一の公的な相談窓口として、個別相談や学習会などを開いている。

一七年度の相談は約四百件に上る。年代は十～五十代と幅広く、大半が家族からの相談という。県内の当事者数は相談件数をはるかに上回るとみられるが、実態はよく分かっていない。

ガイドブックはA5判で一万部を発行し、県内の保健所や市町村などに配った。センターのホームページにも掲載している。入手先や相談はセンター＝電 058 (231) 9724＝へ。（杉浦正至）

データ入力 別の中国系企業に委託 年金機構「時間限られていた」

産経新聞 2018年5月6日

日本年金機構から年金受給者のデータ入力業務を委託された情報処理会社が、中国の業者に契約に反し再委託をしていた問題で、機構が情報会社と契約を打ち切った後、別の中国系企業に同業務を委託していたことが5日、分かった。機構は「他に業者がなく、時間

が限られていたため随意契約したが、情報管理は問題ない」と説明している。

情報処理会社「SAY企画」（東京都豊島区）は昨年8月、機構から約500万人分のマイナンバーや配偶者の年間所得額などを含む個人情報のデータ入力業務を約1億8千万円で受託。予定していた人員を集めることができず、中国・大連の業者にデータの一部入力を再委託していたことが今年3月に発覚した。

それ以前から再委託の契約違反を把握していた機構は、2月にSAY企画と契約を打ち切ったあと、外部委託先を探していたが、「確実に業務を遂行してもらうため」として、過去に同様の業務を実施した業者9社に打診。唯一、中国系企業が受け入れた。本来ならば競争入札を行うところだが、機構は「時間が限られている」と判断し、随意契約を結んだという。

機構によると、SAY企画の入力ミスの修正や未完成分の業務は、機構の職員らが補（ほ）填（てん）。平成30年分の受給者のデータ入力など同社の残りの業務を中国系企業が約1570万円の契約金額で引き継いだ。

前回の教訓から、機構は業務開始前に立ち入り検査を行い、情報セキュリティの管理や、業務態勢を確認し、問題がないと判断したという。中国系企業に業務を委託したことに対し、機構は「国籍を見ているわけではなく、委託資格や能力があるかどうかを見て判断している」としている。

会社登記簿などによると、中国系企業の本社は東京都内にあるが、社長以下役員全員が中国人。中国の上海、海南島、成都などに拠点があり、日本と中国にデータ入力のための業務センターがある。同社は産経新聞の取材に対し、データ入力業務について「機密情報で答えられない」としながらも、情報管理については「契約上、他国へ渡ることはない」と述べた。

機構の業務委託をめぐるのは、委託先のずさんな処理が発覚したことをきっかけに、外部専門家による調査委員会が4月に発足。委託の適正な在り方を議論しており、6月上旬をめどに報告書をまとめる。

監督は全盲者、SF映画どうやって制作？人気声優ら協力 朝日新聞 2018年5月6日
撮影した映像を確認する加藤秀幸さん（左から2人目）、佐々木誠さん（右端）たち（佐々木さん提供）

生まれつき目の見えない男性が監督を務めた映画が完成した。東京都町田市の会社員、加藤秀幸さん（42）のSFアクション作品「ゴースト・ヴィジョン」。制作過程を追ったドキュメンタリー作品「ナイトクルージング」とともに5月20日、都内で支援者対象の上映会を開く。

「言い方は悪いですが、けんかを売っている」。

加藤さんは「ナイトクルージング」の中で、映画制作の理由をそう説明する。

目が見える人が作った映画を、見えない人が音声ガイドなどを使って鑑賞しても「説明を聞かないと分からないところがある」という。逆に、見えない人が作った映画が見える人にどう受け止められるのか。加藤さんにとって今作は、それを知るための「挑戦」だという。題名の「ゴースト」は「幽霊」ではなく、そうした「壁、バリアーのようなもの」をイメージしているという。

映画は約12分。加藤さんを投影した全盲の主人公と、目が見える仲間の男性とのいわゆる「バディー・ムービー」（2人組を主人公にすえた映画）だ。信頼はしているけれども、見える者と見えない者との間に存在する「狭間（はざま）＝ゴースト」を、ストーリーの中で浮かび上がらせる内容となっている。

一方の「ナイトクルージング」では、加藤さんと目の見えるスタッフとの間の「ゴースト



ト」を克服するための取り組みが描かれる。ストーリーを説明する「絵コンテ」の代わりに「サウンドコンテ」を作ったり、登場人物と場所の位置関係を示すために組み立て玩具のブロックを使ったり。

加藤さんは自分のいる場所の位置関係を把握するのに、指を鳴らした反響音を利用する。作品中、人気ゲーム「ファイナル・ファンタジー15」（スクウェア・エニックス）の人工知能（AI）開発を担当した三宅陽一郎さんが登場し、AIの空間認識手法と加藤さんのそれが似ていることを知る様子なども描かれる。

「ゴースト・ヴィジョン」は、友人の映画監督の佐々木誠さん（42）やプロデューサーの田中みゆきさん（37）らのサポートを受けて作った。佐々木さんは「ナイトクルージング」の監督を務めた。

加藤さんは佐々木さん、田中さんとの信頼関係に触れつつ、「手伝ってくれる人がいれば、映画を全盲でも作れますよ、という証明になったんじゃないかな」と話す。

加藤さんが脚本を書く際にアドバイスを受けたのは、映画「RAILWAYS 49歳で電車の運転士になった男の物語」などの脚本で知られる小林弘利さん。声の出演者として、人気声優の山寺宏一さん、ジャッキー・チェンの吹き替え声優として知られる石丸博也さん、DJ・作家のロバート・ハリスさんらが協力した。

上映会の後、作品は海外の映画祭などに出し、日本での劇場公開は来年になる予定。目の見えない人も楽しめたり、目の見える人が見えない人の体験ができたりするような形での上映も検討しているという。（永田篤史）

医師が処方する「治療用アプリ」 田辺三菱製薬が開発へ スマホで患者支援、保険も適用

産経新聞 2018年5月6日

田辺三菱製薬が、国内製薬大手で初めて「治療用アプリ」の開発に乗り出すことが5日、分かった。治療用アプリは、スマートフォンなどのアプリが患者（利用者）の症状や体重、体調、生活パターンなどを分析し、医学的データに基づき生活習慣などを指導して、病気の治療を支援する仕組み。医薬品でも医療機器でもない“第3の治療法”になる可能性があり、世界各国で開発競争が始まろうとしている。（安田奈緒美）

治験で医学的効果を実証

生活習慣改善や健康管理のためのアプリはこれまでも例があるが、治療用アプリは開発時に治験（臨床試験）を実施し、医学的な効果を実証する点が特徴。厚生労働省に承認されれば保険が適用され、医療の一環として医師の処方を受けて使



用される。

田辺三菱は今年度中にも治療用アプリ開発に乗り出す方針。同社はこれまで鬱病や統合失調症などの「中枢神経系疾患」を重点領域の一つにあげ、薬を開発してきた。こうした分野の治療に関するアプリや、薬の飲み忘れを防ぐ服薬管理アプリの開発に取り組む。社外の研究機関などとの提携も視野に入れている。

米国FDAは承認

治療用アプリをめぐるのは米国で、糖尿病患者が血糖値を記録することで疾患指導を受けられるアプリが米食品医薬品局（FDA）に承認され、保険が適用されている。また、注意欠陥・多動性障害（ADHD）の患者が視覚や知覚などの能力を改善するためのゲームアプリの開発も進んでいる。

日本では昨年10月、ベンチャー企業のキュア・アップ（東京都中央区）が国内で初めて、治療用アプリ「Cure App（キュアアップ）禁煙」の治験を開始した。たばこを吸いたくなるタイミングで、アプリが喫煙をやめるためのメッセージを発信するなどの仕組みで、来年度中の保険適用を目指している。

キュア・アップ社長で医師でもある佐竹晃太氏は「開発に対する費用対効果が高く、経済的に優れた新しい治療法」と話す。

新薬開発1200億円、アプリは数億円

一般的に、新薬開発には10年以上の期間と1200億円の投資が必要とされる。その上、成功確率が低いというリスクもある。さらに近年は、バイオ医薬品など従来なかった高度な技術も求められ、製薬企業の経営を支える画期的な薬の開発は難しさを増している。

これに対し、治療用アプリは開発費が数億円程度で済む。このため、少子高齢化や新薬開発コストの増加に伴い高騰する医療費の抑制にもつながると期待されている。副作用も少ないと考えられている。

田辺三菱の三津家正之社長は「薬だけでは治療が難しい疾患の治療に、アプリを組み合わせることで効果を高めることも期待でき、可能性は大にある」と話している。

製薬業界もデジタル改革

バイオ技術の革新などで世界の医薬品市場が拡大する中、製薬企業は激しい薬の開発競争にさらされている。そこで業界では、高い技術を持つ医薬品のベンチャー企業や、すでに高収益の医薬品を製品化している企業をM&A（企業の合併・買収）によって丸ごと手に入れようとする動きが後を絶たない。いわば開発の「時間を買う」手法ともいえる。武田薬品工業が現在、アイルランドの製薬大手シャイアーの買収を目指しているのもその一例だ。

一方で製薬各社が近年、生産性向上のために取り組んでいるのがデジタル改革だ。膨大な量のデータや試験が必要な創薬研究には、ITで改善できる余地が大きい。理化学研究所や京都大学、製薬企業、IT企業などは共同で創薬専用のAI（人工知能）開発を進めている。

米リサーチ会社、グローバル・マーケット・インサイツは、治療用のアプリを含めた日本のデジタルヘルスケア市場は、2017年が30億ドルだったのに対し、24年には201億ドルに拡大すると予測する。新たな市場を求めて治療用アプリに参入する企業は増えていくとみられている。

家族と登山中に小5男児が行方不明 東京 御岳山 NHK ニュース 2018年5月6日

東京・青梅市にある御岳山で5日、家族と登山に来ていた小学5年生の男の子の行方がわからなくなり、警察や消防が6日朝から捜索しています。

警視庁によりますと、行方がわからなくなっているのは埼玉県内に住み、同じ県内の特別支援学校に通う小学5年生の10歳の男の子です。

男の子は5日、父親と祖父母の合わせて4人で東京・青梅市にある御岳山に登り、山頂にある神社でお参りをしたあと、下山途中の午後2時すぎに家族とはぐれ、行方がわからなくなったということです。

家族が周辺を捜しましたが、見つからなかったため、およそ2時間後の午後4時すぎに警察に通報したということです。

男の子は、一緒にいた父親が靴ひもを結びなおしている間に突然、走り出し、姿が見えなくなったということで、通報を受けた警察が5日夕方から捜索を始め、6日朝からは消防を加え、午前11時半すぎの時点で合わせておよそ40人の態勢で捜索していますが、見つかっていません。

男の子は、青色の半ズボンとベージュ色のTシャツを着ていてベージュ色のリュックを背負い野球帽をかぶり、赤色のスニーカーを履いているということで駅などに写真を張り出

して情報の提供を呼びかけています。

御岳山

御岳山は、東京都の西部、青梅市にあり、標高は929メートルです。古くから霊山として知られています。ふもとから山頂付近までケーブルカーで登ることができ、ハイキングコースが整備されているため多くの登山客が訪れます。山頂にある武蔵御岳神社の周辺には、みやげ物店や宿坊と呼ばれる宿がならんでいます。

御岳山付近の天候と気温

御岳山の東10キロ余りのところにある気象庁の東京・青梅市のアメダスの観測点では、男の子の行方がわからなくなった5日午後2時以降は、雨は降っていませんでした。

5日午後2時ちょうどの気温は24度4分で、午後2時21分には24度8分を観測し、これが5日の日中の最高気温となりました。

その後は、気温は徐々に下がり、5日午後8時以降は20度を下回り、6日午前4時24分に11度ちょうどの最低気温を観測しました。

その後は再び気温が上がり、午前11時の気温は25度3分と、25度以上の夏日になっています。

東京・御岳山で不明の小5男児を無事保護 命に別条なし 産経新聞 2018年5月6日

東京都青梅市にある御岳山（標高929メートル）で5日午後から行方がわからなくなっていた埼玉県の小学5年の男児（10）が6日正午すぎ、警視庁山岳救助隊の隊員に発見され、保護された。足に切り傷があり、体がぬれた状態だったが、命に別条はないという。下山途中に家族とはぐれたとみて警視庁青梅署や東京消防庁が約40人態勢で捜索に当たっていた。同署によると、男児は6日午後0時15分、御岳山の山頂にある武蔵御嶽神社から北西に1・4キロ離れた越沢（こいざわ）付近に1人でいるところを発見された。隊員の呼びかけには応じていないが、大きなけがはないという。男児は5日午後1時半ごろ、父親と祖父母の計4人で御岳山の山頂にある武蔵御嶽神社に参拝。下山するため、ケーブルカーの御岳山駅に向かう途中で行方がわからなくなっていた。

中尾優理さんとアスペルガー

佐賀新聞 2018年5月6日

武雄市の中尾優理さん（23）は高校時代、不登校を経験。吐き気や腹痛はうそではなかったが、なぜ学校に行けないのか、わからなかった。摂食障害や自傷行為。下された診断は「アスペルガー症候群」◆中尾さんは、自分が「アスペルガー」という特性と共に生きているということを理解し始めたとき、これまで自分でも腑（ふ）に落ちなかった「生きづらさ」が一本の糸に通されたように法則性をもって、初めて目の前に現れた—という◆音の聞こえ方、光の見え方、誰もが同じだと思っていたが、自分は他と違った音や光にさらされながら生きているらしいことが分かって、「普通とは違う自分のカテゴリーを見つけた気がしてうれしかった」◆中尾さんは、迷いなく多様な学びができる太良高に転学。同様のクラスメートと存分に遊び、学び、卒業後、本気で発達障害の研究者になるために、まずカナダに語学留学。英語でのコミュニケーションが中尾さんの世界を格段に広げた◆2年間の猛勉強で昨年6月、心理学の名門、英国ヨーク大に合格。学費を貯（た）めるため1年遅れの入学手続きを済ませ帰国。アルバイトをしながら今、佐賀市の「ぎやらりいT」でイラスト作品展を開いている（20日まで）。人間の可能性と、人の特性を理解することの大切さを教えてくれる生き方に拍手を！（賢）



月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も
大阪市天王寺区生玉前町5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行